

(様式1) 新規評価総括表

事業種類	治山・砂防		事業名	山地治山				林務部 森林づくり推進課												
	番号	市町村名		(ふりがな) 箇所名	事業概要	全体事業費 (千円)	H26年度 事業費 (千円)	完了 予定 年度	箇所評価						部意見	行政改革課意見	現地 調査	申請	採択	備考
									必要性	重要性	効率性	緊急性	計画熟度	評点						
	1	佐久市	まえやま 前山	床固工 1個 護岸工 356m 山腹工 0.15ha 伏工 780㎡	33,000	20,000	H26	18	9	9	38	15	89	豪雨の度に、山腹崩壊が拡大している。下方に人家等、重要な保全対象が存在することから、対策を図る必要がある。	H24.7豪雨で山腹崩壊が発生。今後の豪雨により拡大崩壊した場合、下方の集落、県道等への被害が懸念されることから、必要性、重要性、緊急性が認められる。	○	○	○		
	2	阿智村	ごか 伍和	谷止工 17個 床固工 7個	755,000			18	10	7	34	20	89	対策の必要性は感じられるが、本年度実施している災害関連緊急治山事業の進捗状況を踏まえ、流域全体の復旧計画を精査したうえでの事業実施が望ましい。	重要性は高く、必要性、緊急性も認められる。					
	3	上田市	れいせんじ 霊泉寺	谷止工 2個	120,000	60,000	H27	17	8	10	38	15	88	H25年台風18号災により下方の市道へ土砂が流出した。溪床内に未だ不安定土砂が堆積しており、次期出水時には、再度、市道へ土砂が流出する恐れがあるため、対策を行う必要がある。	必要性、重要性、緊急性が認められる。		○	○		
	4	上田市	わこ 和子	山腹工 0.47ha 落石固定工4,700㎡	195,000	20,000	H28	14	10	8	40	15	87	落石対策を目的とした治山事業施行地であるが、山腹斜面の侵食、風化により、新たな落石が発生している。下方に人家等があることから、緊急に対策を図る必要がある。	H23.12に落石が発生し、人家まで到達した。今後の豪雨等で浸食が進行した場合、下方の人家、国道への被害が懸念されることから、重要性、緊急性が高い。	○	○	○		
	5	塩尻市	がけ 崖ノ湯	山腹工 0.15ha 土留工 2個 水路工 85m ほか	15,000	15,000	H26	16	9	9	40	12	86	平成25年9月発生 of 台風災により、新たな山腹崩壊が発生しており、今後更に拡大するおそれが高いことから、対策を図る必要がある。	緊急性が高く、必要性、重要性も認められる。		○	○		
	6	阿智村	たいこんざわ 大根沢	谷止工 10個	199,600	27,000	H29	10	10	8	34	20	82	溪床内に不安定土砂が堆積しており、次期出水時には直下の道路等に被害を及ぼす恐れがあるため、対策を行う必要がある。	H25.9発生台風18号災害により土石流が発生。今後の降雨等で不安定土砂が再異動する可能性があるため、重要性が高く、緊急性も認められる。	○	○	○		
	7	小谷村	おおいわ 大岩	山腹工 0.10ha 落石固定工1,000㎡	25,500	0	H26	16	7	9	34	15	81	落石対策を目的とした治山事業施行地であるが、山腹斜面の侵食、風化により、新たな落石が発生している。下方に鉄道等があることから、緊急に対策を図る必要がある。	必要性、緊急性が認められる。		○	○		
	8	佐久市	いんない 印内	山腹工 0.30ha 簡易法枠工1,200㎡	13,000	13,000	H26	18	9	9	30	15	81	豪雨の度に、山腹崩壊が拡大している。下方に人家等、重要な保全対象が存在することから、対策を図る必要がある。	H24.7豪雨で山腹崩壊が発生。H25春にも倒木が発生するなど不安定な斜面状況であることから、必要性、重要性、緊急性が認められる。	○	○	○		

(様式1) 新規評価総括表

事業種類	治山・砂防		事業名	山地治山								林務部 森林づくり推進課								
	番号	市町村名		(ふりがな) 箇所名	事業概要	全体事業費 (千円)	H26年度 事業費 (千円)	完了 予定 年度	箇所評価						部意見	行政改革課意見	現地 調査	申請	採択	備考
									必要性	重要性	効率性	緊急性	計画熟度	評点						
	9	川上村	だいにちぎわ 大日沢	谷止工 1個	43,000	0	H26	18	8	7	34	12	79	既存施設の経年変化等による老朽化が著しく、機能が低下している。直下に村道があることから、早急に対策を図る必要がある。	昭和30年代前半に自然石で造られた谷止工。老朽化により施設損傷が発生しており下方に村道があることから、必要性、重要性、緊急性が認められる。	○	○	○		
	10	長野市	はなぐら 花倉	山腹工 0.20ha 土留工 3個	20,000	20,000	H26	11	9	9	38	12	79	山腹崩壊が拡大し、溪床内に不安定土砂及び流木が堆積しており、次期出水時に下方保全対象に土砂流出するおそれがあるため、対策を図る必要がある。	重要性、緊急性が認められる。		○	○		
	11	下條村	だいら シイナ平	谷止工 1個 山腹工 0.21ha 実播工 276㎡ ほか	84,600	31,000	H28	16	9	7	32	14	78	溪流上部に山腹崩壊地があり、豪雨の度に、溪流内に土砂が流出するため、溪床内に不安定土砂が堆積している。次期出水時に下方の県道に土砂が流出するおそれがあるため、対策工の実施が必要である。	山腹崩壊が拡大し、村道の路体確保に影響が出ていることから、必要性、重要性、緊急性が認められる。	○	○	○		
	12	塩尻市	もとやま 本山	谷止工 1個 山腹工 0.60ha 土留工 4個 法枠工 1,000㎡ ほか	150,000	30,134	H29	10	8	7	34	18	77	今回の台風18号による山腹崩壊は崩壊規模が大きく関沢の閉塞も発生したため、災害直後から地元本山区からの強い要望があり、地権者に対する事業実施及び保安林指定への合意形成への協力体制が形成された。また、本山地区では隔年で地域避難訓練も行われているが、今回の土砂災害を教訓にさらなる土砂災害に対する地域体制が整えられた。	重要性、緊急性が認められる。		○	○		
	13	木曾町	しもとの 下殿	山腹工 0.80ha 落石固定工8,000㎡	200,000	100,000	H27	10	7	7	40	12	76	落石対策を目的とした治山事業施行地であるが、山腹斜面の侵食、風化により、新たな落石が発生している。下方に人家等があることから、緊急に対策を図る必要がある。	下方に人家があることから、緊急性が高い。	○	○	○		
	14	大町市	ふじさわがわ 藤沢川	谷止工 1個 護岸工 33㎡ 山腹工 0.17ha 法枠工 300㎡ ほか	79,000	15,000	H28	10	10	7	34	15	76	山腹斜面の侵食、風化により崩壊地が拡大している。下方に県道など重要な保全対象が存在することから、対策を図る必要がある。	H16.台風16号により山腹崩壊が発生。その後、徐々に崩壊が拡大している。下方に県道長野大町線があることから、重要性が高く、緊急性も認められる。	○	○	○		
	15	佐久市	よこわ 横和	山腹工 0.20ha 法枠工 2,000㎡	33,000	0	H26	14	8	9	30	15	76	H25.9月台風災により新たな山腹崩壊が発生した。山腹上部には人家があり、今後の降雨により崩壊地が拡大するおそれがあることから、対策を図る必要がある。	重要性、緊急性が認められる。		○	○		

(様式1) 新規評価総括表

事業種類	治山・砂防		事業名	山地治山									林務部 森林づくり推進課							
	番号	市町村名		(ふりがな) 箇所名	事業概要	全体事業費 (千円)	H26年度 事業費 (千円)	完了 予定 年度	箇所評価						部意見	行政改革課意見	現地 調査	申請	採択	備考
									必要性	重要性	効率性	緊急性	計画熟度	評点						
	16	木祖村	すすきばやし 薄林	床固工 1個 護岸工 31m 山腹工 0.08ha 伏工 800㎡	16,000	16,000	H26	16	7	9	32	12	76	新たな山腹崩壊の発生により、溪床内に不安定土砂が堆積している。次期降雨時に下方に流出するおそれが高いため、対策を図る必要がある。	土砂流出防備保安林で山腹崩壊が発生、今後の降雨等により課拡大した場合、下方の人家、県道への被害が懸念されることから、必要性、緊急性が認められる。	○	○	○		
	17	辰野町	みなみさわ 南沢	谷止工 3個 山腹工 0.59ha 土留工 10個 ほか	150,000	33,200	H29	12	10	7	34	12	75	H26年台風18号災により崩壊した土砂が未だ溪流内に大量に堆積しており、土砂災害を防止するため早急に対策工事に着手する必要がある。	重要性が高く、緊急性も認められる。		○	○		
	18	阿智村	うぐす川	谷止工 2個 床固工 2個	107,600	32,000	H28	16	8	8	28	15	75	溪床内に不安定土砂が堆積しており、次期出水時には直下の取水施設等に被害を及ぼす恐れがあるため、対策を行う必要がある。	H25.9.16発生の台風18号被害により土石流が発生したことから、必要性、重要性が認められる。	○	○	○		
	19	南牧村	ほつちよう 掘長	谷止工 1個 床固工 3個 森林整備 2.00ha	43,000	28,000	H26	13	8	7	32	15	75	溪床内に不安定土砂が堆積しており、次期出水時には直下の取水施設等に被害を及ぼす恐れがあるため、対策を行う必要がある。	H24.7豪雨で溪岸浸食が発生。下方の谷止工の基礎部が洗掘され露出しており、今後の被害拡大が懸念されることから、重要性、緊急性が認められる。	○	○	○		
	20	高山村	やまだ いり 山田入	山腹工 0.01ha 土留工 4個	37,000	0	H26	11	8	6	38	12	75	豪雨の度に、山腹上部斜面の侵食、風化が進行している。下方には村道などの保全対象が存在することから、対策を図る必要がある。	重要性、緊急性が認められる。		○	○		
	21	上田市	きんそうじ 金窓寺	谷止工 2個	72,000	35,000	H27	13	5	9	32	15	74	既存施設の経年変化等による老朽化が著しく、機能が低下している。直下に村道があることから、早急に対策を図る必要がある。	緊急性が認められる。		○	○		
	22	木曾町	ちごの 児野	山腹工 0.80ha 落石固定工8,000㎡	200,000	100,000	H27	9	7	7	38	12	73	落石対策を目的とした治山事業施行地であるが、山腹斜面の侵食、風化により、新たな落石が発生している。下方に人家等があることから、緊急に対策を図る必要がある。	緊急性が認められる。		○	○		
	23	大町市	とちざわ 栃沢	谷止工 7個	150,000	28,990	H29	10	10	8	30	15	73	溪床内に不安定土砂が堆積しており、次期出水時には直下の人家、道路等に被害を及ぼす恐れがあるため、対策を行う必要がある。	H16台風により土石流が発生し、市道が流出。今後の降雨等により浸食が進行した場合、下方の人家、国道への被害が懸念されることから、重要性が高く、緊急性も認められる。	○	○	○		

(様式1) 新規評価総括表

事業種類	治山・砂防		事業名	山地治山						林務部 森林づくり推進課								
	番号	市町村名		(ふりがな) 箇所名	事業概要	全体事業費 (千円)	H26年度 事業費 (千円)	完了 予定 年度	箇所評価						部意見	行政改革課意見	現地 調査	申請
必要性	重要性	効率性	緊急性	計画熟度	評点													
24	飯田市	ちよ 千代	流路工 290m	128,200	29,200	H28	16	7	6	32	12	73	渓床内に不安定土砂が堆積しており、次期出水時には直下の人家等に被害を及ぼす恐れがあるため、対策を行う必要がある。	既設谷止工底部が洗掘され堆積土砂が流出していることから、必要性、緊急性が認められる。	○	○	○	
25	山ノ内町	おとみ さわ 乙見沢	谷止工 1個	31,000	31,000	H26	11	6	9	32	15	73	豪雨の度に、溪流沿いの侵食、崩壊が進んでおり、次期出水時に下方の保全対象に土砂流出、流木被害が発生するおそれがあるため、対策工の実施が必要である。	H25.9発生台風18号で土石流が発生し農業用水路が被災したことから、緊急性が認められる。	○	○	○	
26	長野市	さき さわおき 笹沢沖	山腹工 0.15ha ホーリング暗渠工2群 土留工 3個	50,000	0	H27	7	7	7	36	12	69	平成25年9月発生の台風災により、新たな山腹崩壊が発生しており、今後更に拡大するおそれが高いことから、対策を図る必要がある。	緊急性が認められる。		○	○	
27	売木村	ほくじょうさわ 牧場沢	谷止工 1個 流路工 200m	45,000	29,000	H27	18	8	9	20	14	69	平成25年9月発生の台風災により、新たな山腹崩壊が発生しており、今後更に拡大するおそれが高いことから、対策を図る必要がある。	H25.9発生台風18号で山腹崩壊が発生し、溪流内に不安定土砂が堆積していることから、必要性、重要性が認められる。	○	○	○	
28	長野市	かしわやま 柏山	谷止工 2個 山腹工 0.10ha	40,000	22,000	H26	16	9	9	22	12	68	渓床内に不安定土砂が堆積しており、次期出水時には直下の道路等に被害を及ぼす恐れがあるため、対策を行う必要がある。	必要性、重要性が認められる。		○	○	
29	軽井沢町	みなみいじりさわ 南聖沢	山腹工 0.20ha 土留工 3個 伏工 2,000㎡ ほか	27,000	27,000	H26	14	7	9	26	12	68	H25.9月台風災により新たな山腹崩壊が発生し、山腹内に不安定土砂が堆積している。次期出水時に下方へ流出するおそれがあることから、対策を図る必要がある。	人家の保全の必要性は認められる。		○	○	
30	川上村	あとかいと 後海戸	山腹工 0.50ha 土留工 3個	27,000	27,000	H26	14	10	9	22	12	67	山腹内に不安定土砂が堆積しており、次期出水時に下方の道路へ流出するおそれがあることから、対策を図る必要がある。	近隣で県道に土砂が流出する災害が発生。本地区の山腹内にも不安定土砂が堆積しており、下方に県道があることから、重要性が高い。	○	○	○	
31	辰野町	にとう 二洞	谷止工 1個 床固工 5個 流路工 140m	73,000	0	H28	12	9	8	22	15	66	溪流内には大量の不安定土砂が堆積しており、直下の集落を土砂災害から保全するため、対策工事を実施する必要がある。	H18.7豪雨で溪流内から土砂が流出。下方に集落、県道があることから、重要性が認められる。	○	○	○	

(様式1) 新規評価総括表

事業種類	治山・砂防		事業名	山地治山									林務部 森林づくり推進課					
	番号	市町村名		(ふりがな) 箇所名	事業概要	全体事業費 (千円)	H26年度 事業費 (千円)	完了 予定 年度	箇所評価						部意見	行政改革課意見	現地 調査	申請
							必要性	重要性	効率性	緊急性	計画熟度	評点						
32	長野市	じゅうにまわり 十二廻	谷止工 3個	35,000	0	H26	18	7	9	20	12	66	新たな山腹崩壊の発生により、渓床内に不安定土砂が堆積している。次期降雨時に下方に流出するおそれが高いことから、対策を図る必要がある。	必要性が認められる。		○	○	
33	木曾町	く、ぞうとうげ 九蔵峠	床固工 3個 山腹工 0.58ha 伏工 890㎡	31,000	0	H26	7	8	9	30	12	66	新たな山腹崩壊の発生により、渓床内に不安定土砂が堆積している。次期降雨時に下方に流出するおそれが高いことから、対策を図る必要がある。	山腹崩壊が発生。今後の降雨等により拡大した場合、下方の国道361号への影響が懸念されることから、重要性、緊急性が認められる。	○	○	○	
34	飯田市	ながれみや 流宮	山腹工 0.15ha 土留工 5個 落石固定工950㎡	44,600	0	H26	8	8	10	24	15	65	落石対策を目的とした治山事業施行地であるが、山腹斜面の侵食、風化により、新たな落石が発生している。下方に国道があることから、対策の必要がある。	H22.7梅雨前線豪雨災害により、山腹崩壊が発生し、土砂、転石が国道152号まで流出。今後の降雨等によって山腹の転石が再移動する恐れがあることから、重要性が認められる。	○	○	○	
35	小川村	なかご 中後	谷止工 2個	213,000	0	H27	8	7	7	30	12	64	既存施設の経年変化等による老朽化が著しく、機能が低下している。直下に人家等があることから、早急に対策を図る必要がある。	緊急性が認められる。		○	○	
36	飯田市	かわじ 川路	谷止工 1個	23,000	23,000	H26	14	6	9	18	17	64	既存施設の経年変化等による老朽化が著しく、機能が低下している。直下に市道があることから、早急に対策を図る必要がある。	既設谷止工の老朽化が進んでいることから、谷止工の必要性は認められる。	○	○	○	
37	山ノ内町	びょうぶ 屏風	山腹工 0.20ha 土留工 1個 法枠工1,000㎡ ほか	76,000	3,500	H26	13	6	7	22	15	63	H25.9月台風災により、山腹上部斜面が崩壊し、土砂が流出している。下方には町道など保全対象が存在することから、対策を図る必要がある。	公共施設の保全の必要性は認められる。		○	○	
38	南木曾町	たしろ、かわ 田代沢	谷止工 1個	43,500	43,500	H26	14	10	7	20	12	63	山腹崩壊地の拡大により、渓床内に不安定土砂が堆積している。次期降雨時に下方に流出するおそれが高いことから、対策を図る必要がある。	山腹崩壊が発生。下法に国道256号があることから、重要性が高い。	○	○	○	
39	南木曾町	わくだいら 枠平	谷止工 3個	38,000	0	H26	5	9	9	28	12	63	豪雨の度に、溪流沿いの侵食、崩壊が進んでおり、次期出水時に下方の保全対象に土砂流出、流木被害が発生するおそれがあるため、対策工の実施が必要である。	重要性が認められる。		○	○	

(様式1) 新規評価総括表

事業種類	治山・砂防		事業名	山地治山									林務部 森林づくり推進課							
	番号	市町村名		(ふりがな) 箇所名	事業概要	全体事業費 (千円)	H26年度 事業費 (千円)	完了 予定 年度	箇所評価						部意見	行政改革課意見	現地 調査	申請	採択	備考
									必要性	重要性	効率性	緊急性	計画熟度	評点						
	40	長野市	うずけ 埋家	谷止工 1個	20,000	20,000	H26	14	8	9	20	12	63	渓床内に不安定土砂が堆積しており、次期出水時には直下の道路等に被害を及ぼす恐れがあるため、対策を行う必要がある。	重要性が認められる。		○	○		
	41	長野市	たっぱしざわ 達橋沢	谷止工 2個 山腹工 0.40ha	105,000	3,000	H28	9	10	7	24	12	62	渓床内に不安定土砂が堆積しており、次期出水時には直下の道路等に被害を及ぼす恐れがあるため、対策を行う必要がある。	重要性が高い。		○	○		
	42	木曾町	のう いけ 濃ヶ池	谷止工 1個	140,500	0	H26	13	6	8	22	12	61	平成25年9月発生 of 台風災により、渓床内に大量の不安定土砂が堆積しており、次期出水時に下方に流出するおそれがあることから、対策を図る必要がある。	公共施設の保全の必要性は認められる。		○	○		
	43	中川村	ごうし きわ 郷土沢	床固工 4個 護岸工 158m 緑化工	96,000	0	H28	14	9	6	20	12	61	渓岸浸食を防止し下流への土砂流出を防止するため、対策工事を実施する必要がある。	顕著な溪流浸食が見られる。今後の降雨等によりさらに進行した場合、下方の集落、国道153号への被害は懸念されることから、重要性が認められる。	○	○	○		
	44	長野市	なかた 中田	谷止工 3個	60,000	46,000	H26	14	7	7	26	7	61	既存施設の経年変化等による老朽化が著しく、機能が低下している。直上部に県道があることから、早急に対策を図る必要がある。	既設の谷止工の老朽化が進んでいることから、谷止工の必要性は認められる。	○	○	○		
	45	飯田市	なかやま 中山	谷止工 1個 山腹工 0.15ha 土留工 ほか	40,000	0	H27	10	10	8	18	15	61	H25年台風18号災により被災した市道への土砂災害を防止するため、早急に対策工事を実施する必要がある。	H25.9発生台風18号で山腹崩壊が発生し、土砂が市道まで流出したことから、重要性が高い。	○	○	○		
	46	木祖村	いしき ざわ 石木沢	谷止工 2個	33,000	33,000	H26	12	6	9	22	12	61	豪雨の度に、溪流沿いの侵食、崩壊が進んでおり、次期出水時に下方の保全対象に土砂流出、流木被害が発生するおそれがあるため、対策工の実施が必要である。	林地内の溪流荒廃は進んでおり、今後の降雨等により不安定土砂が流出する恐れがあることから、谷止工の必要性は認められる。	○	○	○		
	47	長野市	しっ べいざわ 矢平沢	谷止工 1個 護岸工	15,000			16	7	9	22	7	61	豪雨の度に、溪流沿いの侵食、崩壊が進んでおり、次期出水時に下方の保全対象に土砂流出、流木被害が発生するおそれがあるため、対策工の実施が必要である。	必要性が認められる。					

